



メモ

道路元標は路線の起点や終点などを表示する標識。現在の大阪市道路元標は、▽国道1号―東京都中央区からの終点▽2号―北九州市への起点▽25号―三重県四日市市からの終点▽26号―和歌山市への起点▽163号―奈良県生駒市などを経て津市への起点▽165号―奈良県桜井市などを経て津市への起点▽176号―京都府宮津市からの終点―となっている。

御堂筋のカタリ

大阪市の道路元標は市庁の前とばかり思っていたら、大阪駅前第3ビルの南側、梅田新道交差点角に位置していた。国土交通省の説明によると、この元標は大正11(1922)年には中之島の大阪市庁舎前に、更にさかのぼると明治9

終点か起点になっている。これは、大阪を中心とした関西圏の経済と文化の発展に、動脈の役割を果たしてきたことを物語る。また、元標という点が、終わりの点であると同時に出発の起点であることを思うと、人生と重ねて考えてしまう。

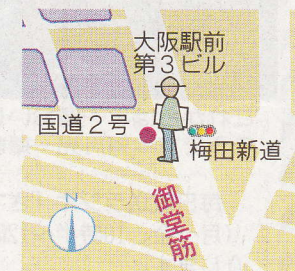
生きがいと感動づくりの

七つの国道の終点か起点に

(1876)年には高麗橋東詰めにあったという。時代と共に大阪市の重心が微妙に変化しつつ、「キタ」に移動していることに気付く。

人生においては、過去と未来が常に背中合わせになって、時が進行していくのである。人間が未来に向かって歩き始める時に、どの方向に向かうべきかの選択に迫られる。希望・目標がはっきりしていれば、おのずと道の選択は決まってくる。しかし、人によって選択候補の道が3本の人もあれば、7本の人もある。

道が見つかり歩き出すと、思わぬ障害に出合うことがある。挫折しそくな



ために、若人のための駅伝マラソンを推奨したい。目標の道のりを自力やチームで克服する「エキデン」は、人生づくりに大いに意味があると思う。こんな考え方で、大阪市道路元標を起点と終点とする市民エキデンやハーフマラソンを、御堂筋イベントにされたらどうだろうか。柔道や剣道のようにならば、大阪エキデン道、大阪マラソン道といえるまで高めたものである。